

# よろこびはだれに



毎年、わたしたちの学校は、埼玉さいたまけん県なわとび大会にゅうしょうに参加さんかしている。今年も全クラスで長なわとびの練習が始まった。みんな入賞しようと真けんだ。わたしたちのクラスは、三チームに分かれて大会に参加することになった。

「見て。このチームすごいよ。」

休み時間、長なわのこつを調べていたかいとさんはクラスのみんなに声をかけた。インターネットで見つけたらしい。近くのみんなが集まってきて画面をのぞきこんだ。

「すごいなあ。ならば方やとび方のこつも出ているよ。」

「ねえ、一位いちいになるような記録きろくが出たら、ぼくたちも動画をのせようよ。」

「それいいね。かっこいい。」



「えっ、わたし知らない人に見られるなんていやよ。」  
「のせるのってだめなんだよね。」  
「でも、おもしろそうじゃないか。」  
みんな話しているところで、チャイムがなった。

もうすぐ大会。今日もタブレットをじゅんびし、チームで円じんを組んだ。  
「新記録しんきろくを出すぞ。オー！」

ピー、いよいよ始まった。みんな真けんだ。

「百九十八、百九十九、二百、二百一、  
二百二……。」

ピー！

「うわあ、やったあ！新記録だ。」

チームのみんななどびはねてよろこび  
合った。わたしはうれしくて、うれしくて、  
なみだが出てきた。

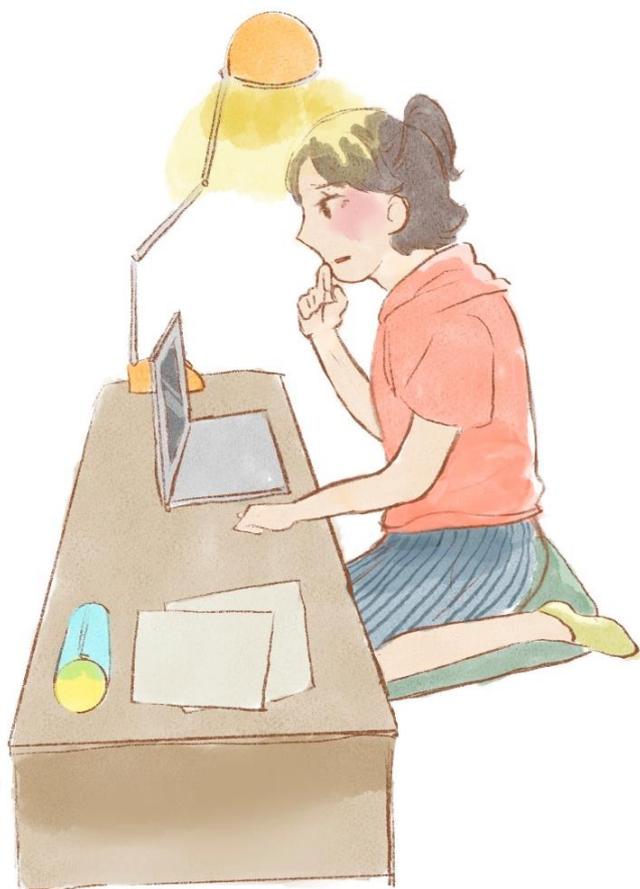
わたしは家に帰るとすぐ、お兄ちゃんに今日の記録を伝つたえた。そして、宿題のために持ち



帰っていたタブレットを開き、今日の動画を見せた。

「すごいな。たくさん練習したんだろう。よくがんばったな。お母さんもこれを見たら、きっとおどろくよ。」

お兄ちゃんもうれしそうな顔をしていた。



宿題を始めてからも、頭の中は今日のことではないだ。気がつくど、わたしはタブレットを開いて何度も何度も動画を見返していた。きんちようし、集中した時間。みんなの息がぴったりあった気持ちよさ、よろこび。これまでの練習のことや、いっしょにがんばってきた仲間なかまの顔。

(記録をのべせたのは、あの動画のおかげかもしれない。)

わたしはインターネットの動画サイトを開いた。(あんな風にならび方やとび方のこつを入れれば、わたしたちの動画もだれかの役に立つかもしれない。でも……。)

動画をのせようとしながらも、わたしの頭には、動画をのせることに反対していた仲間の顔

もうかんでいた。そんなとき、仕事から帰ってきたお母さんの声が聞こえてきた。

(まずは、お母さんに動画を見てもらってから……。)

わたしはタブレットをかかえていそいで部屋を出た。でも、この日は夕ごはんを作るお母さんの手伝いや宿題をしているうちに時間がすぎて、お母さんに動画を見てもらうことも、動画をのせることもできなかった。

次の日、朝の会で先生からインターネットの使い方について話があった。他のクラスでじゅ業中に友達をとった写真をインターネットにのせたことが分かり、問題になったらしい。

「じゅ業中にとった写真はもちろんですが、勝手に写真や動画をインターネットにのせることはいけないことですね。それに、インターネットは写真や動画を消したつもりでいても、ずっと残っていることもあるんですよ。」

わたしは先生の話聞きながら、自分のしようとしていたことを思い出し、ドキドキしていた。

